

1年生ペアが全国準優勝！

2024年1月、経済産業省資源エネルギー庁主催の「政府提案型パブリックディベート全国大会」にて、全国の中高生が「エネルギー安定供給と脱炭素社会の実現の両立」をテーマに議論を交わしました。初出場かつ最少構成人数で、全国準優勝を果たした厚木高校1年生(当時)の2人に、大会までの準備や本番を振り返ってもらいました！



今回の大会は、書類選考→全国大会 2日間という流れで行われました。まずは提出する書類を作成することから始まりました。エネルギー政策について詳しく理解し、更に私達独自の政策を立案する必要がありました。関連する情報を多く集め、経済産業省の提示する資料を隅々まで調べました。書類は何回も見直し、まとめました。そして、書類選考を通過することができ、全国大会に出場することになりました。

そこで、もう一度政策を丁寧に見直し、改善しました。特に、議論の焦点になり得る箇所は当日まで話し合いを行いました。また、どのように話せば相手に分かりやすいのか・理解してもらえるかということ意識し、スピーチの練習を行いました。特に原稿作成では、話の構成や言い回し・主張をどこで強調するかなど推敲を重ねました。

<提案した政策>

今回の議題は、「カーボンニュートラルとエネルギー安定供給の両立」でした。私たちは、両者の視点から見て優れている核融合発電をメインとした提案をしました。長期的に達成すべき目標として、発電方式を核融合発電に転換すること、そして企業や連携する研究機関への補助金システムを構築し、研究開発の進捗状況の報告を義務付け、核融合関連事業の成長を視覚化することを提案しました。それまでの短期的な目標では、EV社会の推進や、火力発電からのCO2排出量ゼロ政策を提案しました。また、そのためのコストや新たな税金の導入なども提案しました。

本番では、1日目にリーグ戦が行われました。そして、リーグ戦を通過し、2日目の準決勝、そしてまさかの決勝戦に進むことができました。議論をする中で提案のあやふやな箇所を見つけ、改善していくことができました。また、他校の出場校の方から頂いたアドバイスを参考にし、より良い政策を立案していくことができました。

決勝戦と結果発表は全国に生配信されており、ドキドキの中で最後まで頑張りました！

<参加者の感想>

・核融合発電の実現可能性を国民の理解が得られるように説明するのが大きな課題でした。最後の講評でも足りないと言われてしまったのが悔しいです。たくさんの人の協力があったからこそこの準優勝だと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。非常に貴重な経験ができたと思っています。参加して良かったです。

・環境問題に興味があり、社会的な視点から改善したいという思いがありました。大会では、全国から集まった高校生の皆さんと活発な議論を行うことができ、新たな視点や考えを知ることができました。大変だったことは、1チーム最大12人まで参加可能だったのですが、2人で参加したため、質疑応答や再提案など全ての役割を行う必要があったことです。始めは難しく思うようにできなかつたのですが、回数を重ねる中で、少しずつ対応できるようになり嬉しかったです。10月頃から準備を始め、1つのテーマに対し長期に渡り取り組んでいくことの面白さ・徹底的にリサーチする事の大切さを実感しました。今回の経験を今後につなげていきたいです。最後に、今回は本当に沢山の方に協力していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

<追記>

実はこの大会に今年度(令和6年度)も厚高生が参加予定です。

2人は先輩として興味のある生徒を集めた説明会でたくさんのアドバイスをしてくれました😊

高校生の部

優勝

岐阜県立岐阜高等学校

準優勝

神奈川県立厚木高等学校

敢闘賞

八戸聖ウルスラ学院高等学校

慶應義塾高等学校

関西創価高等学校

福岡県立修猷館高等学校